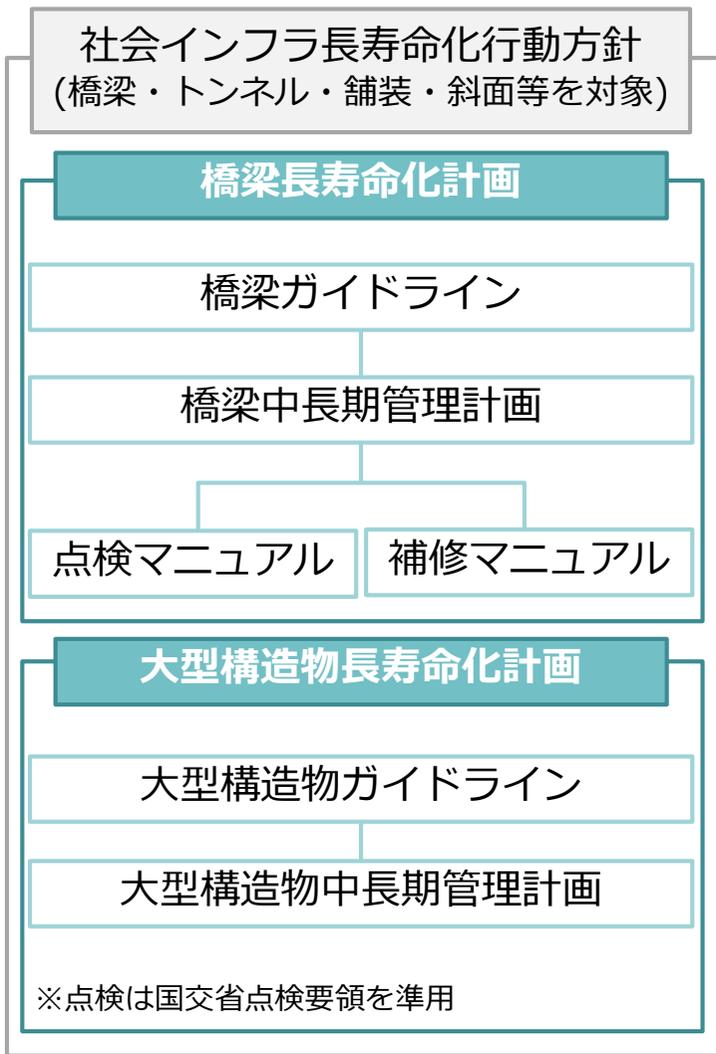


静岡県社会インフラ長寿命化計画
(橋梁及び大型構造物) 改定委員会
第1回委員会の振り返り

本県における維持管理の取組

- 社会インフラの合理的・効率的な維持管理・運営により、限られた財源で長期的な投資の最適化を図り、将来にわたって質の高いサービスを提供する。

- 2003 「土木施設長寿命化行動方針（案）」策定
- 2004 「橋梁ガイドライン（案）」策定・公表
- 2007 「橋梁長寿命化修繕計画（案）」策定
- 2008 「橋梁ガイドライン改訂版」策定
「静岡県橋梁中長期管理計画」策定
- 2010 「静岡県橋梁中長期管理計画」に基づく事業実施
- 2012 「社会資本長寿命化行動方針」策定・公表
- 2014 「横断歩道橋の撤去に関する手引き」を策定
- 2016 「橋梁ガイドライン改定版」策定・公表
「橋梁中長期管理計画改定版」策定・公表
- 2018 「大型構造物ガイドライン、中長期管理計画」策定・公表
- 2024 「社会インフラ長寿命化行動方針」改定
- 2025 「橋梁・大型構造物ガイドライン、中長期管理計画」改定（予定）

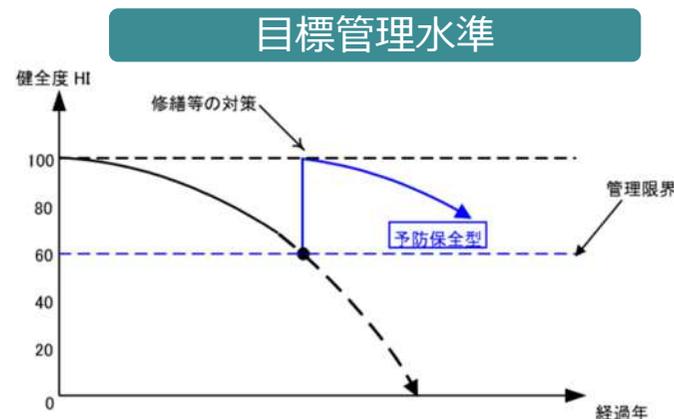


本県における維持管理の取組 橋梁ガイドラインの概要

- 「橋梁ガイドライン」は、アセットマネジメントの考え方を取り入れ、最適な維持管理計画を立案し、事業を進めていくための具体的な評価・実施手法を取りまとめたもの。

現行計画のポイント

目標 管理水準	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予防保全型の管理（管理水準 HI=60） ■ すべての橋梁が対象
状態の把握 ・評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定期点検：5年に1回 ■ 健全性の診断区分と健全度（HI）で評価
中長期管理 計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ■ 耐用年数を120年と設定 ■ 劣化予測は、点検結果による「回帰分析手法」 ■ 部材毎に予防保全型の対策シナリオを設定 ■ 路線特性等を考慮した『重要度』より対策優先度のルールを設定 ■ 修繕後の健全性回復率は100%



対策優先度

評価項目			評価の視点
第1階層	第2階層	第3階層	
利用性 (0.35)	平常時の 利用性 (0.45)	交通量(0.60)	交通量の大きい道路の保全
		交通状況(0.40)	大型車交通量の大きい道路の保全 バス路線の保全
	被災時の 利用性 (0.45)	沿道状況(0.26)	DIC 地区等被災規模が大きい且つ予測される場所への 交通確保
		防災上の役割区分 (0.60)	緊急輸送路の機能確保 隣接県との交通確保 代替路が無い交通路や、あっても時間が掛かる場合 を優先
公共性 (0.10)	良好な景観性(0.40)	良好な景観の保全	
		歴史的価値(0.60)	歴史のある橋梁の保全
被害波及性 (0.50)	変形物件 (0.70)		橋下の観音への被害波及性 橋下の道路への被害波及性
	歩道歩梯(0.30)		高層物件への被害波及性
耐久性 (0.10)	設計示方書 (0.40)		設計基準による特徴的な視点
	上部工形式 (0.20)		上部工形式や材料ごとの特徴的な視点
	下部工形式 (0.40)		下部工形式や材料ごとの特徴的な視点
効率性 (0.05)	補修容易度 (0.60)		施工に伴う月日の制約や、施工の特殊な 作業・作業に要する費用、再構築費用
	コスト(0.40)		

本県における維持管理の取組 大型構造物ガイドラインの概要

- 「大型構造物ガイドライン」は、アセットマネジメントの考え方を取り入れ、最適な維持管理計画を立案し、事業を進めていくための具体的な評価・実施手法を取りまとめたもの。

目標管理水準

- 目標管理水準：予防保全段階の限界値（健全度ⅡとⅢの境界）
- 限界管理水準：早期措置段階の限界値（健全度ⅢとⅣの境界）



対策優先度



現行計画のポイント

- | | |
|------------|--|
| 目標管理水準 | <ul style="list-style-type: none"> ■ すべての施設で対象を設定 ■ 予防保全型管理 ■ 管理水準 健全性 Ⅱ（Ⅲになる前） |
| 状態の把握・評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 定期点検 5年に1回 ■ 健全性の診断区分で状態を把握・評価 |
| 中長期管理計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 耐用年数を120年と設定 ■ 劣化予測は、点検結果による「回帰分析手法」 ■ 部材毎に予防保全型の対策シナリオを設定 ■ 道路利用者への被害リスクへの影響度を考慮し対策優先度のルールを設定 ■ 修繕後の健全性回復率は100% |

予防保全型管理の深化（橋梁・大型構造物）

検討内容

項目	内容
「予防保全型管理の深化」	
1 劣化予測の検証・精度向上	【本日審議】 現行計画の劣化予測の妥当性を検証し、精度向上を図る
2 再劣化の抑制	【本日審議】 目標とする管理水準を維持し、施設の長寿命化を図るため、再劣化の防止策を検討する
3 新技術・新材料の活用	【次回審議】 維持補修費のコスト低減や部材の耐久性向上を図るため、損傷状況に応じた新技術・新材料の導入を検討する
4 対策優先度の設定	【次回審議】 第三者へのリスク管理など、施設の特徴や立地条件等重要度を考慮した上で検討する